

道玄だより

第二号

道玄だより2号は「文化財をみる」を観点に、調査工事をクローズアップしました。

文化財には見るポイントが様々あり、髹股彫刻もその典型のひとつです。

特に桃山期以降の髹股彫刻は、鳥や花、古い伝承を彫刻彩色で表した社寺建築の中でもひととき華やかな部材です。

「髹股」も、「みる」視線を上手に意識させる呼び名に思われます。

よく使われるテーマに二十四孝という教えがあります。この親孝行物語は中国から日本に伝わり、江戸時代には寺子屋の教材にもあったほど、馴染み深い教えだったようです。

いつの間にか二十四孝の教えが失われ、私達も親孝行を忘れかけているのではないのでしょうか。

道玄だより編集長



二十四孝の話のひとつ「郭巨」が題材の髹股

高鴨神社本殿 彩色調査工事



調査結果

今回の調査で、彩色の修理が何度かおこなわれていることが確認できました。修理された時代によって文様に変化している理由はわかりませんが、各時代の特徴が表れているものと思われまます。また周辺の神社を参考調査をした結果、この地域ならではの独自性を持った表現がされているということもわかりました。

引き続き作業をおこない、調査の精度を高めていきたいと思ひます。

製作部彩色修復担当 竹明 美典



文様が残っている箇所



復原案

国の重要文化財に指定される本殿の外観には、彩色での装飾が施されていたようです。

光学調査や顔料分析でその装飾文様や絵具の材料を究明しております。

鈴鹿宮司様より

高鴨神社は大和の名門の豪族である鴨一族の発祥の地にあり、全国に分布する加茂社の総社にあたります。鴨一族は水田に金属を立て、雷を利用した土壌改良を行う技術など、独自の稲作技術を持った一族でした。

今回の調査工事で施工時期によって異なる彩色文様が本殿に施されていたことがわかり、それぞれの時代に生きた鴨一族の思いを読み取ればと感じております。

安楽寺 奉納額 彩色調査復原修理



安楽寺の奉納額には「奉茶湯」の文字が書かれている。その下には、七代目海老蔵・八代目団十郎の文字。よく見ると三升の紋で縁取られている。

裏面には嘉永元年（1848）に先祖供養・子孫蕃育を祈り奉納されたことが記されていた。

奉納のお話

天保十三年、奢侈を禁ずる天保の改革に触れたとして、七代目海老蔵は江戸を追放され、上方で活躍していた。この時息子である団十郎は茶断ちを行い、父の赦免を願ったと伝えられている。嘉永二年に赦免され、翌年、江戸に戻ることができた。家族で安楽寺を参拝した時に飲んだお茶は赦免のお祝いだったのかもしれない。

塗膜の復原

今回の修理では、わずかに残った塗膜の成分分析をおこない当時の色を復原した。いかにも、歌舞伎役者が奉納した額らしく、現代の目から見ても、とても派手な彩色に仕上がった。

営業部 担当 石黒 文香



伊藤住職様より

今回の修理で先祖供養、子孫繁栄という内容が裏書されていたことが判明しました。歌舞伎という伝統芸能に携わった団十郎さんだったからこそ、このお気持ちを託して額を奉納されたことは大変意味のあることだと思っております。

安楽寺様では、春の一般公開をしています

〈つづ〉5月1日から6日、9日、10日
〈さつき〉5月23日、24日、30日、31日、6月6日
30分おきに、本堂で寺の由緒を説明していただけます。その他、書院でも催しものがおこなわれます。

古道をゆく

道玄社長が案内する
2009年度
園塾会員様限定サークル講座

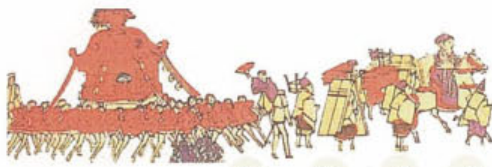
現代の道は目的地への移動手段であって、その道自体を楽しめない。
その点、今では消えそうな道であっても古道は楽しい。道沿いの遺跡に想像力を膨らませながら一歩一歩味わうと、自分の奥深くに眠るありとあらゆる感覚が目覚めはじめる。かつては色んな人が行き交った道。誰がどんな思いで通った道か？喜びや哀しみ、希望や孤独・・・
古道には、表舞台からは見えない歴史がある。

澤野道玄

人生を道になぞらえて、二時間ほどの古道ハイキングをしませんか？道玄社長が六つの古道をご案内します。

全身で古道を味わった後は、とっておきの食事でお腹を満たして。

日程



- 第一回 唐櫃(からと)越え
四月十九日(日)十時～
 - 第二回 后(きさき)の道
六月二十一日(日)九時半～
 - 第三回 祇園祭 昔の巡行を辿る
七月十五日(水)十六時～
 - 第四回 逢坂の関
十一月二十二日(日)十時～
 - 第五回 糺の道 出雲路をゆく
十二月十三日(日)十時～
 - 第六回 東高瀬川と清酒の里
二〇一〇年三月十四日(日)十時～
- 入会金：千円
参加費：四千五百円/回(食事込み)
※セット価格有り
※詳しくは、園塾までお問合せください。

漆塗りの技法 ～しぼ塗り～

西陣くらしの美術館 富田屋様の蔵扉には漆が塗られているのですが、扉のデザインにあわせて、部分的にテクスチャーを変え、高級感あふれた塗りが施されていたことがわかりました。

今回その肌感を表現するのに用いたものはなんと“豆腐”。漆に豆腐や卵白などのたんぱく質を少量混ぜ、叩くように塗ることで、上品な質感を出すことができます。この「しぼ塗り」は刀の鞘などにみられる技法です。



一般的な漆塗りの美しく滑らかな表面と、この変わり塗り技法のひとつのしぼ塗りを合わせることで、より洗練された雰囲気表現しました。

私もこんなしぼ塗りに、思慕の念を抱いてしまいました。

製作部漆修復担当 大井 未歩

わたしの好きな文化財 製作部漆修復担当 仙頭好生

古代の出土品に瓶と呼ばれる須恵器があります。瓶子とも呼ばれていました。酒器の一種で現代の徳利と同じ用途ですが、瓶子は神前に一對奉納され、用いられます。中世には、木地曳物に朱漆や黒漆を塗り、漆絵で文様を描かれたものもあります。



人々が使用される中で現れたカタチを「用の美」といいます。

以前ある美術館で見た、室町時代のものといわれる根来塗りの瓶子は装飾を削ぎ落とした究極の「用の美」を見せてくれました。

今の時代には職業デザイナーがいて、いろんな美しいカタチを創作していますが、この根来塗りの瓶子の美しいプロポーションを見ていると、日本人の美意識は、はるか昔に既に完成しているように思いました。

◇発行 株式会社 さわの道玄 担当：徳永
〒604-8232
京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491番地
TEL 075-254-3885 / FAX 075-254-3886



※詳しくは、(株)さわの道玄営業管理部または園塾までお問合せください。

- ・ 文化財修復現場へのご案内
 - ・ 文化財畳ソムリエ講座
 - ・ 宮大工の心と技の見学
 - ・ 瓦葺き職人体験
 - ・ オリジナル仏像の彩色講座 等
- お客様の声
ある企業では、管理職の方々のリフレッシュを目的に園塾をご利用されました。
- 〈研修内容〉
1、社寺建築資料館の案内
2、歴史的建造物の寺内散策
3、茶の湯体験
4、和尚様のご講話
〈研修された方の感想〉
・ 充実した内容で心身ともにリラックスできた。
・ 伝統工芸や宮大工の技術に感銘を受けた。
・ 参加者で意見交換会をしたかった。



園塾 (えんじゆく)

〒615-8205 京都市西京区松室中溝町30-11
TEL:075-382-1238 / FAX075-382-1239
<http://www.enjyuku.info>



◆講座・研修企画承ります◆

文化財は、人々の手わざの所産です。作り手の意識に思いをはせると、文化財は人間の生き様や温もりを感じさせてくれます。
人の手わざを伝える文化財から、社会や自己を見つめ直すきっかけを創りませんか？
お客様のご希望や目的、ご予算に合わせて十名さま以上より文化講座・研修会をご提案いたします。
まずは、お気軽にご相談下さい。

企画例